

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

エネコム広島ビル

CASBEE広島 2013年追補版Ver.2(BPI/BEI対応)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください ・窓面積の削減により、外皮性能の向上を図った	3.0	0.22	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能
	3.0	0.00				
	5.0	0.78	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	4.6	0.09				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください ・電気室への外気冷房の導入	4.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用	
小計	3.5	0.13				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ・LED照明器具採用等による省エネルギー化	4.3	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	4.3	0.20				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください ・BEMSを設置しエネルギー管理を可能とする	4.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	3.5	0.13				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ・節水型衛生器具の採用 ・LED照明器具の採用 ・鉄骨造であり、仕上げと躯体の分離が容易	4.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	5.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	5.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.8	0.31				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください LED照明器具の採用等による省エネルギー化	3.5	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	3.5	0.13				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価						
	3.8	0.70				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.51	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	3.0	0.25	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	2.0	0.24	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	2.8	0.97				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な駐車場、駐輪場の確保	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	5.0	0.03				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価						
	2.8	0.20				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ・免震構造建物でレベル2において許容応力度設計 ・免震装置の導入 ・屋外露出ダクトにガルバリウムダクトを利用 ・ビニルライニング鋼管、ステンレス鋼管等を利用	5.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性
	5.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免震・制振性能
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	4.0	0.03	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	4.0	0.06	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	4.3	0.70				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画し特徴に配慮した事項を記載してください。 ・各所にパイプスペース、EPS、CS(ケーブルスペース)を設置 ・冷媒配管ルートとして屋外を利用 ・設備機器専用エレベーターを設置 ・発電機増設スペース、室外機増設スペースを確保	4.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	4.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性
	5.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	5.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	5.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	4.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース
小計	4.4	0.30				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)						
	4.3	0.10				
■重点項目の総平均(上記3項目)						
	3.7					